

災害復旧事業によせて

平成18年 災害復旧事業によせて



広島県北広島町長
竹下正彦

1. はじめに

この度、全国防災協会機関紙「防災」への寄稿の機会を頂戴しましたことに対して、深く感謝とお礼を申し上げます。

北広島町は、中国地方のほぼ中央に位置し、平成17年2月1日に4つの町（芸北町、大朝町、千代田町、豊平町）が合併して新たに誕生した町で、人口約2万1千人、面積は646平方kmと町としては中国地方で最大の広さを持ち、関西と九州を結ぶ大動脈・中国縦貫自動車道と山陽の広島市と日本海側の浜田市を結ぶ広島浜田道のほぼ中間点・結節点に位置する交通の要衝であり、瀬戸内海に

注ぐ太田川、日本海に注ぐ江の川の中国地方の二大河川の源流の町です。

国の重要無形文化財「壬生の花田植え」や「新庄のはやし田」といった郷土芸能も盛んで、特に神楽は町内に60以上の神楽団があり、その勇壮な舞は町内外の多くのファンを惹きつけ、高い評価と支持を集めています。また、一部地域は豪雪地帯に属し、スキー場が9つもあり、日本最南端のスキー場集積地域としても知られています。

ご多分にもれず中山間地域である北広島町は、少子・高齢化や人口減少が続いており、新町の将来像を『「新田園文化のまち」宣言 北広島町』



北広島町位置図

と設定し、施策の基本目標を「地域再生、定住と交流の拡大」として、災害に強い安全・安心に暮らせるまちづくりに、真正面から取り組んでいます。

2. 平成18年災害

平成18年は、前年12月から2月にかけて断続的に降り続いた豪雪にはじまり、7月には、梅雨前線や南からの暖かく湿った空気の流入により大雨となり、豪雨による甚大な災害が発生。また、9月には、秋雨前線や台風13号の影響により、広島県北部や広島市北部を中心に大雨となりました。この大雨により広島県内では死者1名、行方不明1名等の人的被害や家屋の全壊、床上浸水等住家被害が発生しました。

この年の広島県における公共土木関係の災害は、小災害・市町単独災害をのぞき、県全体で1,634件、約133億円もの被害が発生しました（過去10年間では平成11年に次いで2番目）。このうち北広島町関係分は、19%相当の約25億円で、県関係が96件、約19億円、町関係が108件、約6億

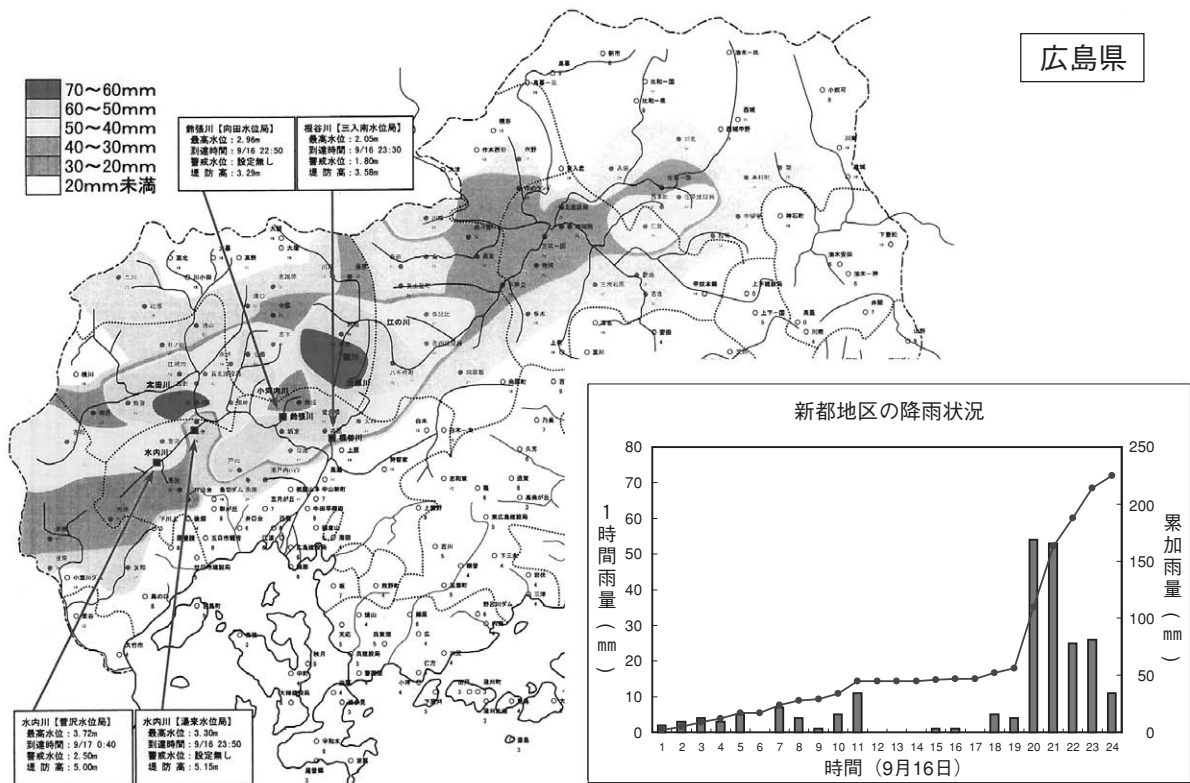
円でした。

過去に広島県では、昭和20年9月の枕崎台風、昭和26年10月のルース台風、昭和42年7月豪雨、昭和47年7月豪雨、昭和63年7月豪雨、平成11年6月豪雨と大きな災害に見舞われています。

本町においては、昭和47年に広島県史上未曾有と言われる災害を経験しており、幹線道路の多くの橋梁が流され、小学校が倒壊するといった大きな被害が発生しました。このときは、県北地域全体に5日間にわたって持続的な大雨が降って、大河の太田川、江の川を洪水が襲ったわけです。

それに対して、今回の平成18年9月の豪雨は、これとは様相が全く異なり、近年の豪雨の特徴とされる降り方で、限定された地域において短時間に集中的に雨が降ったことにより洪水が発生したものです。

同じ町内でも、ピンポイント的に豪雨に見舞われている地域と、ほとんど雨が降っていない地域がはっきり分かれているのが近年の気象の傾向であり、町内全体の状況を迅速に情報収集することが特に重要です。上流部で降った豪雨により、雨



60分最大雨量の分布図

が降っていなくても突然の洪水に襲われる可能性もあるわけで、初動のための適切な情報の収集・共有の重要性を改めて認識させられました。

今後も地球温暖化による気候変動の影響で、大雨の頻度や短期の降雨量が増加するとの予測もあり、将来的な土砂災害の危険性の増大や治水安全性の低下が懸念されるところですが、危機的財政状況によりハード整備がままならない現状では、ソフト面の充実が急務であり、役場、企業、町民が一体となった防災体制の更なる強化を推進していく決意を新たにいたしました。

3. 18年9月豪雨における災害関連事業

平成18年9月の公共土木施設災害で、本町に係る広島県の災害関連事業が4件採択されました。

9月16日の日中に中国地方にあった秋雨前線は、夜には山陰沖に北上して停滞、台風13号の東側を回り込んだ南からの暖かく湿った気流が中国地方に流れ込み、16日の夕方から17日の未明にかけて局地的な豪雨に見舞われることになりました。この9月豪雨による被災において、災害関連事業で採択されたのは、一級河川江の川水系の出原川、冠川、石井谷川、一級河川太田川水系の根の谷川で、それぞれ河川が氾濫し床下、床上浸水が発生しました。

被災箇所に接続した脆弱な残存施設は次期出水で弱点となること、護岸や橋梁の災害復旧工事のみでは十分な効果を期待できないことから、一連区間の再度災害防止に効果が大きく、抜本的な被

災原因の除去が可能な改良復旧事業である災害関連事業が4件採択されたことについては、民生の安定、災害に強いまちづくりに大きく寄与するものであり、県をはじめ関係者の皆様に感謝しているところです。

採択された災害関連事業（広島県土木局資料より）

河川名	事業費 (百万円)	被害状況	事業概要
出原川	389	床上1戸 床下5戸	延長 L=1,528m 一定計画部 L=750m
冠川	189	床上4戸	延長 L=1,937m 護岸、落差、嵩上げ
石井谷川	198	床上1戸 床下1戸	延長 L=1,875m 護岸、脆弱部改築
根の谷川	404	床下1戸	延長 L=3,602m 護岸、脆弱部改築



出原川被災航空写真（撮影：広島県）



出原川出水状況



出原川改良復旧後



根の谷川被災状況



根の谷川改良復旧後

4. おわりに

本町では、豪雨の経験を生かすため、昨年 4 月に危機管理監という専門の職を設置しました。また、災害発生時の支援協力体制を確保するため、重仮設機材等のリース会社及び町内の建設関連業者で構成する北広島町災害対策等支援協力会と災害時における支援に関する協定を締結していま

す。

今後も災害に強い防災環境をつくるため、地域における防災意識を高め、地域住民の手による自主防災組織の育成を推進するとともに、広域的な連携によって様々な状況に対応できる、より強固な防災体制づくりや災害に強い地域構造の形成に積極的に取り組んで参ります。



壬生の大花田植（国指定重要無形文化財）



有田の大蛇（国指定重要無形文化財）



千手観音立像(重文)

月光菩薩立像(重文)

本尊黒銅如来座像(重文)

日光菩薩立像(重文)

吉祥天立像(重文)

古保利薬師（国指定重要文化財 薬師如来像をはじめ12体が指定）